

第 1 回瑞穂市子ども・子育て会議（書面会議）について

項目	意見・質問	事務局回答
(1)教育・保育事業	<ul style="list-style-type: none"> ・バス送迎の可能な保育所等が増えると、利用者の利便性向上につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内において、ほづみ幼稚園ではバス送迎が行われているが、保育所では行われていない。保育所は利用者によって、利用時間が異なるためバスの運行時間をどうするか、また運行経路によっては乗車時間が長くなり体力を消耗させてしまい、遊びや交流の機会を奪うことになってしまう等の問題点が考えられる。そのため公立保育所の施設においては、保護者による登降所としたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉法第 33 条の規定による一時保護期間中、保育所等の在籍は継続させてもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケースごとの事情や在籍している施設側の状況が異なるため一概には言えないが、市としても引き続き在籍できるよう協力していきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・R2 年度実績の 1 号認定について、①計画値が 457 に対し、②実績値が 683 とあり、かい離率が 149%となっている。現場での受け入れ体制に支障はないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H31 年 10 月に保育料が無償化したことにより、幼稚園を希望される保護者が増えたと思われる。施設側としては、定員の限度内で受け入れているため現状では支障はない。

項目	意見・質問	事務局回答
(2)地域子ども・子育て支援事業 ①時間外保育事業	・保護者の就労形態の多様化に伴い、延長保育や長時間の保育の需要が高まっているため、職員を増加して対応してほしい。	・現在のところ、延長保育や長時間保育の需要に応じている。今後、更に需要が高まった場合でも対応できるように人材確保に努める。
	・R2年度実績が前年度より下回る原因はなにか。	・R2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、保護者の仕事環境が大きくかわったと想定される。在宅ワークの推進や勤務時間が短くなったこと、また新型コロナウイルス感染症に対する不安といった心理的な影響もあり、時間外保育を希望する保護者が減少したと考えられる。
②放課後児童健全育成事業	・小学校高学年の層の子どもたちに対する事情に応じた継続的かつ柔軟な受入体制の仕組み・あり方について、制度の見直し・正しい情報の啓発などが必要になると思う。年齢では図れない潜在的な課題（困窮・障害・外国籍等）を整理・対応できるような協議が必要だと思う。	・放課後児童クラブの受入体制において、現状では低学年優先となっているが、ご指摘の通り各家庭により事情は異なり、そうした潜在的なニーズに対応しないといけない。今後は「新・放課後子ども総合プラン」を踏まえた検討をしつつ、併せて民間の放課後児童クラブの活用や設置を促進し、受入体制の拡充を図りたい。

項目	意見・質問	事務局回答
②放課後児童健全育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・安定的な運営と児童への保育の質の向上に取り組むと同時に指導員の人材確保が大切であると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報誌での募集の掲載や近隣市町村へ折込みチラシでの募集の周知等行い、今年度は約 20 名の採用につながった。今後も指導員・サポーターの確保に努めていきたい。
③子育て短期支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズが増えているので、短期入所生活援助事業（ショートステイ事業）と夜間養護等事業（トワイライトステイ事業）の充実が必要だと思う。 ・相談、申請からの受け入れや流れについて、再度共有が必要と感じる。 ・事業のニーズをキャッチするために各相談機関や福祉事業所等への啓発の在り方などを今後も検討できるといい。 ・働き方改革が進み、多様な働き方を選択する保護者の増加が見込まれる中、この事業についてより一層の強化が必要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のニーズに対応できるよう、子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援センターが連携して行っている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の負担を軽減できるように利用しやすい制度としてもらいたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・国の基準に沿って行っているが、利用者には個別に相談等しながら支援している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・施設を通じて里親への依頼を促進してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・里親への依頼可能な施設については今年度より実施している。

項目	意見・質問	事務局回答
④地域子育て支援拠点事業	<ul style="list-style-type: none"> ・市内5ヶ所の施設があり、子育てセミナー等の充実を図ることが大切だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍が長期に渡っていることもあり、利用の条件を人数制限や時間制限等、コロナ対策として徹底している。今年度は子育てセミナーをコロナ対策を充分に行った上で再開している。収束の際には更に充実させていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で参集が困難であるが、代替的な支援方法を工夫してもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て相談の継続で支援している。参集の制限はあるが、電話での相談は受け付けている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の周知の方法としてSNSの活用も有効と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内在住者に限定しているため、広報誌と市HPでの周知であるが、来場者は多い。SNSについては、今後検討したい。
⑤一時預かり事業	<ul style="list-style-type: none"> ・計画値の積算根拠や見通しについて確認したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画値は、実績値及び人口動態、アンケート調査による需要をもとに設定した。今後はやや減少する見込みである。
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園と保育所による一時預かりが重点をしめ、その充実を図ることが大切だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も現在の受入体制を維持し、事業の継続に努める。
	<ul style="list-style-type: none"> ・R2年度実績の保育所一時預かりが前年度より低くなっているのが気がかりである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・R2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者の感染防止の意識の高まりから利用者数が半数程度になったと考えられる。

項目	意見・質問	事務局回答
⑥病児保育事業	<ul style="list-style-type: none"> ・病児保育の実績値が半分以下だが、問題はないか。 ・R2 年度実績値が H31 年度実績値より低くなっているのはどうしてか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・R2 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者の感染防止の意識の高まりから利用者数が半数程度になったと考えられる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・市内で実施可能な事業所を開設してもらいたい。 ・市内に病児保育施設や市内病院での受け入れ施設が必要と思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内で実施している施設がないのは課題である。ただし現在、市民が利用可能な市外の施設が 14 施設あり、市から距離が近くアクセスしやすい施設や利用児童の保護者の勤務先に近い、もしくは通勤経路上にある施設等、保護者のニーズに合った施設を確保できていると考えられる。
⑦ファミリー・サポート・センター事業	<ul style="list-style-type: none"> ・計画値に比べ実績値が少ないので、今後どのように活用していくか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くのかたに認識してもらう必要があるため、保育施設や学校、放課後児童クラブ等を通じ、子育て世代のかたに周知していきたい。
⑧利用者支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代包括支援センター事業との連動制・協働性について確認したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠、出産の経過情報や出生届出時の面談、乳児家庭全戸訪問、相談対応にてニーズを把握し、事業紹介や利用勧奨及び関係機関との連携調整による支援体制づくりを行っている。

項目	意見・質問	事務局回答
⑨妊婦健康診査	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの妊婦の方が健康診査を受けているので、更なる充実をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委託医療機関から市への費用請求時に送付される妊婦健康診査受診表の記載事項を確認し、支援が必要な妊婦を把握している。
	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦健康診査を実施する医療機関と連携し、支援を必要とする妊婦の情報共有を適切に行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市や医療機関で支援を要すると判断された妊婦については、書面や電話を介し相互間で情報共有を図っている。また岐阜県が行っている「母と子の健康サポート事業」による医療機関からの情報提供と支援依頼に基づいて支援を行っている。
⑩乳児家庭全戸訪問事業	<ul style="list-style-type: none"> ・かい離率が9割近くと高水準なので、この割合を維持してほしい。 ・子育て世代包括支援センター事業との連動性・協働性について確認したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から乳児家庭全戸訪問事業は子育て世代包括支援センターにて行っており、妊娠や出産の経過等のセンターで把握している情報を基に切れ目のない支援継続に努めている。 ・令和3年度より「子ども支援課」へ子育て世代包括支援センターが移管し、子育て世代包括支援センター事業として引き継がれている。母子保健事業を通し、支援を要すると判断した母子については健康推進課へ引き継ぎ、妊娠期から子育て期まで継続的に支援ができるよう働きかけている。

項目	意見・質問	事務局回答
①養育支援訪問事業	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の内容、効果についてイメージや啓発が不足している印象がある。生活困窮者の自立支援事業の動向などを含め、事業の効果性について少しずつ見直しをしていけるといいと思う。 ・実績が少ないので、更に充実させてほしい。 ・育児支援ヘルパー派遣について、積極的な活用が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援センターが連携し、乳児家庭全戸訪問事業等で把握した支援を必要とする家庭に対し養育能力をつける必要がある。そのために養育に関する相談、指導、助言等を行い、自立に向けた取り組みを行っている。
(3)瑞穂市における保育施設の待機児童対策の取組状況について	<ul style="list-style-type: none"> ・過去3年は待機児童が増えていたが、最近は充足しておりこのまま維持してほしい。 ・数値には表れない潜在的な待機児童を抱える世帯の意向、意図、生活条件、家族構成など可能な範囲で把握していけるといいと思う。潜在的待機を選択せざるを得ない事情によっては、他の社会資源、福祉サービス等につないでいく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模保育施設の拡充や公私連携型保育施設の開設により、3号認定子どもの定員を増やし待機児童の解消につなげることができた。ただし、特定の保育所を希望して待機する潜在待機児童の数は10月1日時点で64人と依然として高い水準にある。そのため需要に沿う保育施設の拡充が必要だと思われる。事情により保育施設を利用できない保護者に対して、保育所の一時預かりやファミリー・サポート・センター等への案内により、支援の充実を図っている。